



患者さまとプロジェクトをつなぐ架け橋として —メディカルコーディネーターの立場から—

日本医科大学付属病院 オーダーメイド医療室
メディカルコーディネーター

田辺 真理子

シンポジウム

文部科学省におけるリーディングプロジェクトの一つとしてスタートした「オーダーメイド医療実現化プロジェクト(正式名称:個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト)」は、今年の3月までを第一期として一区切りを付けた後、引き続き第二期として平成24年度まで継続されることが決まりました。第一期では北海道から沖縄まで、全国12医療機関の66病院が参加し患者さまへプロジェクトへのご協力を依頼してきました。私はこの参加病院の一つである日本医科大学付属病院でメディカルコーディネーターとして5年間プロジェクトに関わってきました。今回メディカルコーディネーターとしてプロジェクトに関わった立場から振り返ってみたいと思います。

プロジェクトの第一期では、患者さまにプロジェクトの説明をして研究協力をお願いをし理解して頂いた上で、約20万人の方々にDNAと血清試料の提供を、具体的には採血のご協力を頂きました。この研究においてメディカルコーディネーターは、患者さまとプロジェクトをつなぐ架け橋としての役割を担ってきました。医師が患者さまに研究依頼をした後を私たちメディカルコーディネーターが引き継ぎ、文書に基づくインフォームド・コンセントを取得した上で採血をさせ

て頂きました。

当院ではこの5年間に協力頂いた方は2歳から99歳まで、約17000名になります。47疾患を対象にご協力をお願いし、実際に協力を頂いた方の割合は約96%でした。協力を頂いた方の「今度は自分がお役に立つ番だ」、「このような研究がもっと早くあれば良かったのに!」ということばに表されているように、医師からお声をかけられた方々は本当に気持ちよく協力して下さいという印象を持ちました。

5月に開催されたプロジェクト第二期に向けたメディカルコーディネーター講習会において、研究が着々と進んでいることをお聞きました。「未来につなぐ あなたの気持ち」とプロジェクトのキャッチ・フレーズにありますように、患者さまの善意のお気持ちは5年間で20万人規模に広がりました。全国で約600人にひとりの割合でご協力頂いたことになりました。ご協力を頂いた患者さんのお気持ちが形に表れつつあることを喜ぶと共に、このプロジェクトをメディカルコーディネーターとしてお手伝いすることが出来たことを嬉しく思います。今後も患者さまが気持ちよく追跡調査にご協力頂けるよう関わって行きたいと考えています。

プロフィール

東京都立広尾看護専門学校卒業後、日本医科大学付属病院入職。胸部外科病棟、手術部勤務を経て、2003年よりオーダーメイド医療実現化プロジェクトのメディカルコーディネーターとして勤務。

1999年放送大学教養学部発達と教育専攻卒業、2003年筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻カウンセリングコース修了 修士(カウンセリング)、2007年東京大学大学院医学系研究科生命・医療人材養成ユニット 生命・医療倫理学入門コース修了。看護師、救急救命士、日本カウンセリング学会認定カウンセラー。

